

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	看護専門学校	内線等	8006
----	-------	--------	-----	------

事業コード		事務事業名	学生募集事業		
根拠法令等	蒲郡市立ソフィア看護専門学校の設置及び管理に関する条例		A 法令	B 条例	C 規則 D その他 E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象	看護師を志す人に対して
手段	三河地区の高校に訪問して依頼、オープンキャンパス開催及び入学案内の送付等を実施することにより
想定する成果	市内及び近隣市町在住者の入学生の拡大を図る

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
訪問高校数	26	21	18
入学案内送付学校数	157	169	155
出願者数	309	305	

成果指標

成果指標名	三河地区入学者数	市内入学者数
成果指標の説明	三河地区在住入学者 / 全入学者	市内在住入学者 / 全入学者

事業の進捗状況 (一般 会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画			
	実績	80.0%	82.5%	82.5%
成果指標	計画			
	実績	27.5%	15.0%	20.0%
事業費	事業費	2,026	1,690	1,700
	人件費	20,895	20,658	21,055
	(人数)	2.5	2.5	2.5
	合計	22,921	22,348	22,755
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	2,472	2,456	1,600
	一般財源	20,449	19,892	21,155

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	2	応募者は多めで事務が煩雑ではあるが、応募人数的にはほぼ満足のいく結果である
経済効率性	3	3	募集事業に必要な経費は小額である
事務効率性	2	2	応募者が多かったため、入学試験会場に教室も使用したため、臨時職員にも出勤してもらった
必要性	3	2	蒲郡市民が受診すると思われる近隣の医療機関の人材確保のために必要
小計	11 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	対象者が限られている
合計	12 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	出願者数が多く、入学者も市内及び三河地区在住の学生が増えて、学生募集事業としては良い結果である。
------	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

看護専門学校ホームページをより充実させた。
オープンキャンパス受け入れ人数を増やし、前年参加者アンケートを参考に内容の充実を図った。
入学案内の冊子を軽くして郵送料の削減をした。

今後改善すべき点

平成16年度予算に反映する項目

組織、人員に関する提言

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	看護専門学校	内線等	8006
----	-------	--------	-----	------

事業コード		事務事業名	看護教員の研修、研究会等情報収集事業		
根拠法令等	蒲郡市立ソフィア看護専門学校の設置及び管理に関する条例	A 法令	B 条例	C 規則	D その他 E なし

総合計画での位置付け
基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象	看護専門学校の専任教員に対して
手段	研修・研究会へ参加することにより
想定する成果	専任教員の資質の向上を図る

事業の概要

()内の数字は延べ人数

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
教員養成講習会受講者数	2名(11名)	0名(13名)	0名(13名)
幹部教員養成研修受講者数	0名(1名)	1名(2名)	0名(2名)
看護教員看護教育学研修受講	1名(4名)	1名(5名)	2名(7名)
研修会・研究会・学会等への参加	57件	16件	65件
学会発表	0件	0件	1件

成果指標

成果指標名	看護教員看護教育学研修受講者の割合	研修会等への参加	定例の研究会が、年3回のためそれ以外2回を最低と考え5件とした。
成果指標の説明	受講者 / 経験3年以上教員数	日数 × 教員数 / 5件 × 教員数	

事業の進捗状況 (一般 会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	50.0%	50.0%	64.0%
	実績	40.0%	50.0%	
成果指標	計画	100.0%	100.0%	100.0%
	実績	104.0%	27.0%	
事業費	事業費	1,722	2,945	
	人件費	11,701	11,568	11,791
	(人数)	1.4	1.4	1.4
	合計	13,423	14,513	11,791
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	13,423	14,513	11,791

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	1	2	幹部教員養成の研修に1名出たことは、評価出来るが、組織としての質の向上のためには、個々の教員の質の向上が必須であるため、学会等の参加・研修への参加の機会を設けることが学校として必要である。
経済効率性	2	2	教育は、利潤追求を目的としていないため、経済効率性を単純に評価することはできない。しかし、看護教員の質の向上により、経済的効果が生まれる。
事務効率性	1	2	研修により、知識の修得・意識の向上は図られ成果はあったと考える。しかし、研修・学会参加後直ちに反映されるものではないため、成果については評価が難しく長期的にみて行く必要がある。
必要性	3	2	看護に関する知識・技術の修得、教育能力の向上のためには、日々の研鑽が必須である。勉強は個人では限界があるため、修得の場の提供、研究のサポートが学校として必要である。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度			
合計	7 / 15 満点中	8 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	平成14年度は、幹部教員養成の研修を1名が受講したことは、評価できる。組織としての質の向上のためには、個々の教員の質の向上が必須であり、他の教員の研修の機会が減るため、さらに支援する必要がある。
------	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

平成14年度は、幹部教員養成の研修を1名が受講したことは、評価できる。また、看護教員看護教育学研修を毎年1名受講させていることは、教員の質の向上に効果がある。

今後改善すべき点

--

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

--

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	看護専門学校	内線等	8006
----	-------	--------	-----	------

事業コード		事務事業名	臨地実習指導事業				
根拠法令等	蒲郡市立ソフィア看護専門学校の設置及び管理に関する条例		A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	医療
------------------	----

事務事業の内容

対象	看護専門学校の学生に対して
手段	臨地実習で実習指導をすることで
想定する成果	学生の臨床能力の育成を図る

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
実習評定不可人数	4名	3名	0名
基礎看護学実習不可	1名	3名	0名
成人・在宅・老年・母性・小児・精神看護学実習不可	3名	0名	0名
実習受講延べ人数	444名	426名	435名
学生と教員の割合	5～6名：1名教員	4～6名：1名教員	3～5名：1名教員

成果指標

成果指標名	実習の不合格率
成果指標の説明	不合格者数 / 延べ実習受講者数

事業の進捗状況 (一般会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	-
	実績	0.9%	0.7%	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	3,568	3,920	3,920
	人件費	10,865	10,742	10,948
	(人数)	1.3	1.3	1.3
	合計	14,433	14,662	14,868
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	14,433	14,662	14,868

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明(問題点)
達成度	3	2	全員合格を目指し実習指導にあっているが、学生の適性面で問題があったため、不合格となった。看護職としての不適性な学生を卒業させることは、学校の責任として問題であるため、基礎看護学実習において、不合格にしたことは妥当と考える。
経済効率性	2	2	教育は、利潤追求を目的としていないため、経済効率性を単純に評価することはできない。しかし、看護師としての職業は仕事に従事することで、経済的効果が生まれる。
事務効率性	2	2	各実習毎(4~6名の学生)に、1名の教員を配置している。学生4~5名に対し、1名の教員配置が妥当と考える。
必要性	3	3	看護教育において、臨地実習は重要な位置を占めておりまた、看護師になるための能力の習得・資質の向上のために実習指導は重要な業務である。
小計	10 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	-	-	
合計	10 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0~3点までの4段階評価

総合評価	B	B	学生の合格率は、評価してよいと考えるが、H14年度は21%の学生が可(60点~70点)・51%が良(70点~80点)のため、更に習得度が向上するよう教育にあたる必要がある。
------	---	---	--

総合評価は、A~Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

教員の臨床能力の向上、実習施設・実習指導者との連携、勉強会の開催等により、学生への指導力の向上や実習環境整備を図った。

今後改善すべき点

一部の实習施設で連携が不十分であるため、今後調整が必要である。また、現行の教育内容や学生のレベル(実態)を把握してもらうことも必要である。教員自身の臨床能力・指導能力の向上も必要である。

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

--

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載